# 保 健 だ よ り

奈良中学校　保健室　：　R5.2.7

＜　学校教育目標:「世界を小とせよ」奈良中生

知性をみがく生徒　愛情深き生徒　体を鍛える生徒　＞

## 1学年　中学生から考える『生命の授業』

令和５年１月２６日（水）に「くまがやピンクリボンの会」から４名の皆様を講師としてお越しいただき、１学年を対象とした「中学生から考える『生命の授業』」を行いました。今年度は、第２回学校保健委員会と兼ねて実施し、保護者の方にもご参観いただきました。

オンライン配信の様子

『くまがやピンクリボンの会』は 2008 年に熊谷市の市民活動として設立された団体です。乳がんや子宮頸がんを始め、がん早期発見、早期治療につながる検診率向上のための活動をされています。「中学生から考える『生命の授業』」では、ご自身やご家族の経験を通して私たちに「命の大切さ」や「検診の重要性」を伝えてくださっています。

今回は、保護者を対象に、「乳がんプチセミナー」が行われました。乳がんのセルフチェックの方法や実際に乳がんの模型に触れてしこりの硬さを確認しました。保護者の方々からも「今回参加できてよかった。」「できる限り多くのがん検診を受けたい。」とのお言葉をいただきました。

生徒の感想の一部を紹介します。

○がんになって、差別を受ける人がいると知って悲しくなりました。差別をなくすためにも、がんのことをよく知っておきたいと思いました。そして最後におっしゃっていた「明日がくることはあたりまえじゃない。１日１日を大切にしよう。」という言葉は特に心に響きました。最近は忙しくて早く寝られなかったけれど、今日からはできる限り早く寝るようにして体を大切にしていきたいと思いました。

○がんは2人に1人がなるので、とても怖いと思いました。でも今日の話を聞いて「怖い」で済ませないで、がん検診を受けようと思いました。また、がんを人ごとにしないで、サバイバー差別をなくしたいと思いました。

# 1学年　性教育講演会

## 「大人になっていく君たちへ～命の誕生する現場から～」

令和５年２月３日（金）に熊谷市男女共同参画室のご協力の下、１学年を対象とした性教育講演会を行いました。講師は熊谷市大麻生にある中島助産院院長の中島桂子先生です。出産の現場で赤ちゃんを取り上げる立場から、「二次性徴」や「生命の誕生」などのお話をしていただきました。

生徒の感想の一部を紹介します。

○中島先生の話を聞いて印象に残ったことが2つあります。
　1つ目は、自分らしさを大切にして生きていくことです。2つ目は、新しい命が生まれてくることの大切さ、喜びです。自分が生まれてくるときに、自分もお母さんも命がけでがんばっていることが分かり、これまで以上に自分のことを大切にして生きていこうと思いました。

○特に印象に残っているのは、ジェンダーに関する差別をなくそうというところです。男子はこうだから、女子はこうだから、ということは間違っているとわかりました。男子でも女子でも、性に関係なく自由に生きていくことが大切だとわかりました。

## ＊おしらせ＊

日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度とは、お子様が学校の管理下で「けが」などをした時に、保護者に対して給付金（災害共済給付）を支払う制度です。

受診した月から２年間請求を行わなかった場合、給付が受けられなくなります。まだ請求がお済みでない災害がありましたら、必要書類をお渡ししますので、保健室までご連絡ください。